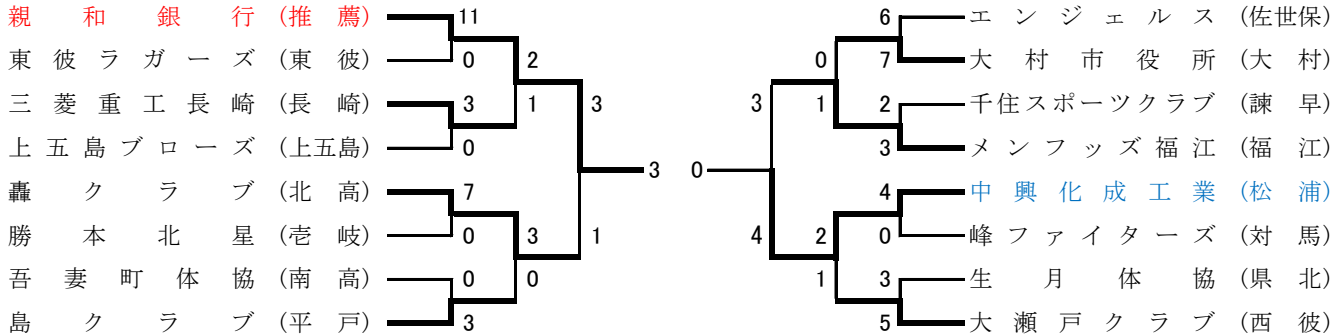


13年ぶりに決勝戦登場の中興化成だったが親銀の前に又も準V

第41回長崎県軟式野球選手権大会

会期：平成3年11月15日(金)～17日(日)
会場：長崎市宮大橋球場、三菱球場



第41回県軟式野球選手権大会は雲仙普賢岳噴火災害のため参加できない島原地区を除く15地区代表と前年度優勝で推薦

の親和銀行が参加。開会式のあと一回戦8試合を行った。
(平成3年11月16日付けの長崎新聞より記事と写真は按捺)

【親和】打安点

⑧丸本	2	0	0
⑤6酒井	2	0	0
④清水	4	1	1
③7益永	4	2	3
⑦5田中	3	1	0
⑨中田	2	0	0
H9仲島	2	1	1
②黒石	4	2	2
①志賀	2	1	0
1荒金	1	1	1
⑥添田	1	0	0
H3上杉	2	0	0
	29	9	8

東彼、守備の乱れ響く

【一回戦】◇大橋：第1試合◇ 振球犠盗失残併 1時間41分

親和銀行	002 315	11	4	7	0	10	0	7	0
東彼ラガーズ	000 000	0	5	1	1	0	3	2	0

(6回コールド) 【三】黒石 【二】黒石、仲島、益永

【評】二回まで東彼ラガーズの左腕・田中雅のカーブに苦しんだ親和銀行だが三回守備の乱れに乗じてつかんだ二死満塁に、益永の三塁後方に落ちる安打で2点を先取。こうなると親銀のペースで足を絡めた攻めや集中打で一方向的な試合展開となった。

県選手権初出場の東彼ラガーズは1安打を放ったのみ。一回の無死四球の西田をバントで送った一死二塁が唯一の得点機では、勝ち目も薄かった。

【東彼】打安点

⑨西田	2	1	0
⑤徳永	1	0	0
H柚木	2	0	0
⑥二瀬	2	0	0
②田中政	2	0	0
①田中雅	2	0	0
⑦福田	2	0	0
④中島	2	0	0
③木場	2	0	0
⑧浦	1	0	0
H小中尾	1	0	0
	19	1	0

重工長崎も快勝



【一回戦】◇大橋：第2試合◇ 振球犠盗失残併 1時間36分

三菱重工長崎	000 201 0	3	2	6	1	4	0	11	1
上五島ブローズ	000 000 0	0	4	0	0	0	3	1	0

【二】向井 伊藤

【評】三菱重工長崎は四回に田中の内野安打と四球で得た一死一二塁から三ゴロ失に恵まれて満塁。梶本の押し出し四球と、江越の中前タイムリーで2点。六回は遊ゴロ悪送球で生きた梶本を二塁に置いて江越が再び右中間に適時打した。

4回表三菱重工長崎、一死満塁の好機に江越が中前タイムリーを放つ。三走小森

【三菱】打安点

⑦梶本	3	0	1
④江越	3	2	2
⑥向井	4	1	0
③渡辺	3	0	0
⑧北原	4	1	0
⑤田中	3	1	0
②伊藤	3	1	0
①9小森	3	0	0
⑨梶田	1	0	0
1奥	1	0	0
	28	6	3

【上五島】打安点

⑨中口	2	1	0
H9宮下	1	0	0
⑥荒木	3	1	0
⑤1藤原	3	0	0
⑦川上	3	0	0
④平山	2	0	0
③吉村	2	0	0
3佐藤	0	0	0
②5川	2	0	0
①2永	2	0	0
⑧神	2	0	0
	22	2	0

【勝本】打安点

⑥松本	3	0	0
④久田	3	1	0
①山口	2	0	0
⑦原田	2	0	0
③尾形	2	0	0
⑧篠崎	2	0	0
⑤川久保	2	0	0
②大久保	1	0	0
⑨原田	2	0	0
	19	1	0

轟クラブいきなり5点

【一回戦】◇大橋：第3試合◇ 振球犠盗失残併 1時間6分

勝本北星	000 000	0	4	2	0	1	4	3	0
轟クラブ	510 001x	7	3	3	1	0	2	6	0

【二】藤田2 谷端和

【評】立ち上がりで勝負が決まった。いきなり相手の連失に恵まれた轟クラブは藤田が三盗失敗したもの、四球と山口の右前打で満塁とし、前田の右前テキサス打と谷端和の右中間二塁打で3点。さらに遊ゴロ悪送球で2点を加えた。二回と六回にもタイムリーが出て加点しコールドゲームとした。

勝本打線は1安打のみで不振だったが守備力の弱さが大敗の原因。

【轟】打安点

⑧藤田	3	2	0
④平野	3	1	1
②芦塚	2	0	0
⑥山口	2	1	0
①前田	3	2	2
⑤谷端和	3	1	2
⑦浜崎	3	1	0
③久世	3	0	0
⑨谷端	2	0	0
H山本	1	0	0
	25	8	5

【島】	打安点
③藤田	3 0 0
⑧松本	3 1 0
①山見	3 0 0
⑤石橋	3 1 0
⑨度島	2 0 0
⑥田中	1 0 0
④富永	2 0 0
4山崎	1 0 0
②柳本	3 1 3
⑦森	2 0 0
	23 3 3

島クラブそつなく得点

【一回戦】◇大橋：第4試合◇ 振球犠盗失残併 1時間15分

島クラブ	030 000 0	3	5	2	1	0	0	2	1
吾妻町体協	000 000 0	0	2	0	0	1	2	2	0

【三】柳本
【二】鹿田樹

【評】柳本のひと振りが勝負を決めた。島クラブは二回先頭の石橋が安打、度島は四球で、バントで二三塁。富永は投ゴロだったが一塁カバーの二塁手が塁を踏み損ねて満塁。ここで8番・柳本の当りは左翼線を抜く走者一掃の二塁打となった。この回を除けば吾妻の鹿田投手はほぼ完璧のピッチングだったが…。

吾妻体協は一回に二走の稲田が投手暴投で一氣に本塁を狙って刺され、先制できなかったのが惜しかった。

【吾妻】	打安点
②稲田	3 2 0
⑧西平	3 0 0
④宮崎	3 0 0
⑥鹿田衛	3 0 0
①鹿田樹	3 1 0
⑤堀	2 1 0
⑦金田	2 0 0
⑨朝永	2 0 0
9大久保	0 0 0
③嶺	2 0 0
	23 4 0

無死満塁制大村が制す

【一回戦】◇大橋：第5試合◇ 振球犠盗失残併 2時間15分

大村市役所	011 100 4	7	5	2	2	1	3	6	0
エンジェルス	010 002 3	6	4	1	0	2	0	10	0

(6回時間切れ。7回は無死満塁制) 2時間15分

【評】六回に長打攻勢で同点に追いついたエンジェルスだったが時間切れによる無死満塁制となった七回、大村市役所が押し出しと横田、山下のタイムリーで4点を挙げたのに対し、エンジェルスは大野の2点適時打と三ゴロ本塁悪送球で3点を返したにとどまり、1点差に泣いた。大村がチャンスを実に得点に結びつけたのに対しエンジェルスは四、五回は無死満塁を無得点。六回の一死三塁のサヨナラ機も逸する始末で10残塁。この拙攻が敗因。

【三】田中義
武富、池田健

【大村】打安点

⑥横田	4 1 2
⑧西村	4 0 0
9下玉利	0 0 0
②山下	4 2 1
⑬黒岩	3 1 0
③⑨久保	2 1 1
98喜々津	0 0 0
⑤小川	2 0 0
⑦森幸	3 2 1
⑨森克	1 0 0
1浦辺	0 0 1
④坂野	3 0 0
	26 7 6

【二】網田

【エンジェ】打安点

⑦池田健	4 1 1
⑧野田	4 1 0
②⑥田中一	4 1 0
③浜田	4 0 0
⑥①大野	4 2 2
⑫池田純	3 0 0
R近藤	0 0 0
④中井	1 0 0
H9酒里	2 0 0
⑤田中義	2 1 1
H5網田	2 1 0
⑨古瀬	1 0 0
94武富	2 1 1
	33 8 5

【福江】	打安点
⑦畑中	3 0 0
④貞方	2 0 0
③才津	3 0 0
②田端	3 0 0
①川崎	3 2 0
⑤田中	2 1 0
⑥都々木	3 1 0
⑨磯田	3 1 3
⑧西川	3 0 0
	25 5 3

福江、終回に逆転3ラン

【一回戦】◇三菱：第1試合◇ 振球犠盗失残併 1時間39分

メンブツ福江	000 000 3	3	0	1	1	0	4	3	0
千住スポーツクラブ	000 100 1	2	7	0	0	0	3	1	0

【本】大串、磯田
【二】川崎

【評】1点リードされて迎えた最終回の福江は一死後、川崎が右中間二塁打。木田の遊越え安打と都々木の投ゴロで二死二三塁。ここで磯田が外角低目をうまく合わせて右翼線に落とし、中継がもたつく間に一気にホームを走りぬけ逆転の3点本塁打とした。

千住は四回に大串の本塁打で先制。七回裏も1点を返して粘ったが及ばず、前年はベスト4入りしたが今回は初戦で消えた。

【千住】打安点

⑧鬼塚	3 0 0
④姫野	3 1 0
⑦野原	3 0 0
⑥大串	3 1 1
②藤山和	3 0 0
⑨田崎	3 0 0
⑤池田	2 1 0
H早田	1 1 0
③岡	2 0 0
3松本	1 0 0
①坂口	2 0 0
H森	1 0 0
	27 4 1

【峰】	打安点
④扇明	3 0 0
⑨永留秀	3 0 0
③阿比留正	3 1 0
②吉田	3 1 0
⑦⑧永留弘	3 0 0
①長野	2 0 0
⑤武田	2 1 0
H土居	1 0 0
⑥扇秀	2 1 0
H阿比留俊	1 0 0
④青柳	2 0 0
H国分	1 0 0
	26 4 0

中興化成の速攻鮮やか

【一回戦】◇三菱：第2試合◇ 振球犠盗失残併 1時間28分

峰ファイターズ	000 000 0	0	7	1	0	0	1	6	0
中興化成工業	301 000 X	4	2	1	0	3	0	4	0

【本】山崎

【評】中興化成は初回に鮮やかに先制した。一死後沢田が遊撃内野安打で出塁。中島の右前打で一三塁として山崎が左中間突破のランニング弾で3点先制。三回にも1点を加え、守備も久保川を盛り立てた。

峰は五、六回に武田と扇秀、阿比留正と吉田がそれぞれ連続安打し反撃のチャンスをつかんだが惜しくも後続なく7年ぶり二度目の県選手権も初戦敗退した。

【中興】打安点

⑧小佐々	3 0 0
⑥沢田	3 1 0
⑤中島	3 1 0
②山崎	3 3 3
①久保川	3 1 0
④田代	2 1 1
⑦橋本	3 0 0
③牧尾	3 0 0
⑨大塚	2 0 0
	25 7 4

大瀬戸が見事な集中打

【一回戦】◇三菱：第3試合◇ 振球犠盗失残併 1時間34分

大瀬戸クラブ	020 030	5	4	4	2	0	1	7	0
生月体協	001 011	3	1	0	1	1	0	5	0

(6回時間切れ)

【本】坂口 【三】宮鳥 【二】浦上、西平

【評】大瀬戸は二回、先頭の浦上安打で一死後に山添嘉、宮鳥の短長打であっさり2点。五回には先頭の山添秀から山添嘉までが生月のエース宮崎の高めに浮く速球を叩く4連打で3点を加点。

生月も三回に1点返した後、五回にはこの日絶好調の坂口が右中間本塁打。六回にも山中の安打から1点返して粘ったが…。

【大瀬戸】打安点

⑥宮口	3 0 0
④本木	3 1 0
②山添秀	3 1 0
①浦上	3 2 1
⑤西平	3 1 1
③山添嘉	3 2 1
⑧宮鳥	1 1 2
⑨神浦	2 0 0
⑦山野	3 0 0
	24 8 5

【生月】打安点

⑦坂口	3 3 1
⑨松山	2 1 0
⑥戸田	3 0 0
②山中	3 1 0
③白浜	3 0 0
⑤松山香	3 1 0
④藤永	3 1 0
⑧大石	3 0 0
①宮崎	1 0 0
1池田	1 0 0
	25 7 1

大会第2日は大橋球場で準々決勝4試合を行った。第1試合は三回戦で対戦するには惜しいカード。推薦出場や長崎地区代表として常連組だった三菱重工長崎が、4年ぶりに登場して親和銀行との一戦は2-1で親銀の勝利。第2試合は轟クラブの前田が島クラブに対しノーヒットノーランを達成。

第3試合は平均年齢45歳のメンフッズ福江がベテランの味を發揮して若い大村市役所に1-0でかわした。第4試合は中興化成工業が最終回に見事な逆転劇を演じて大瀬戸クラブを下した。

(平成3年11月17日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

しぶとさ發揮して逃げ切る

【準々決勝】 1時間23分 振球犠盗失残併

三菱重工長崎	000 100 0	1	4	2	2	0	0	6	0
親和銀行	100 001 X	2	4	0	0	0	0	3	0

【二】上杉

【三菱】打安点

⑦ 榊 本	4 0 0
④ 江 越	3 0 0
⑥ 向 井	2 1 0
③ 渡 辺	3 1 0
⑧ 北 原	2 0 0
⑤ 田 中	2 0 0
② 伊 藤	3 1 1
① 小 森	3 1 0
⑨ 榊 田	2 1 0
24 5 1	

【評】事実上の決勝とも見られたが親和銀行が持ち前のしぶとさを發揮して逃げ切った。

1-1の同点に追いつかれた親銀は六回、先頭の酒井が二塁後方への幸運な内野安打。続く丸本は叩きつけて前進守備の三塁手頭上を越す、いかにも親銀らしいヒットで一二塁。二者が倒れたあとで初回にも二塁打で先制点を叩き出している上杉がうまく右翼線に落とし決勝点とした。三菱重工は三回から六回までいずれも先頭がヒットで出て得点圏へ走者を送りながら適時打は四回に伊藤の1本だけに終わった。三菱は4年ぶりの選手権であるが、これは54年から57年の4年間(長崎日野が全盛の頃)に、長崎代表(内田油圧、中央ダイハツ、長崎魚市)として選手権出場を逃した以来である。

【親和】打安点

⑧ 丸 本	3 1 0
④ 清 水	3 1 0
⑨ 益 永	3 1 0
③ 上 杉	3 2 2
⑤ 7 田 口	3 0 0
② 黒 石	2 0 0
⑦ 志 賀	2 0 0
6 添 田	0 0 0
① 荒 金	2 0 0
⑥ 5 酒 井	2 1 0
23 6 2	

轟ク、前田 ノーヒットノーラン

【準々決勝】 1時間27分 振球犠盗失残併

島 クラ ブ	000 000 0	0	4	2	0	0	1	1	0
轟 クラ ブ	030 000 X	3	4	2	1	1	0	5	0

【島】打安点

③ 4 藤 田	3 0 0
⑧ 2 松 本	3 0 0
① 山 見	3 0 0
⑤ 石 橋	2 0 0
H 米 原	1 0 0
⑨ 幸 谷	2 0 0
⑥ 田 中	1 0 0
② 柳 本	1 0 0
H 7 度 島	0 0 0
④ 山 崎	1 0 0
H 8 富 永	1 0 0
⑦ 森	1 0 0
H 浜 田	1 0 0
3 松 山	0 0 0
20 0 0	

【轟】打安点

② 藤 田	3 1 1
④ 平 野	3 0 0
③ 芦 塚	1 1 1
⑥ 山 口	3 0 0
① 前 田	3 1 0
⑤ 谷 端 和	2 0 0
⑦ 道 副	2 0 0
H 谷 端 道	1 0 0
7 中 山	0 0 0
⑧ 犬 塚	3 1 0
⑨ 伊 東 康	2 1 1
9 山 本	0 0 0
23 5 3	

二塁を踏ませぬ快投

【評】轟クラブの前田はタマに緩急をつけ、とくにフォークボールがよく決まって島クラブ打線を手玉に取り、許した走者は四死球の二人だけ。二塁ベースを踏ませなかった。

この前田は打っても二回の先頭打者で中前打。島クラブ山見投手攻略の突破口を作った。谷端和がバントで送り道副の三ゴロ失と犬塚の内野安打で一死満塁。ここで伊東康と藤田が連続適時打。二死後に芦塚も適時打し、3点を挙げて前田をバックアップした。

山見の投球はこの回、どうしたことか真ん中にタマが集り轟打線に狙い打たれた。この回を除けば無安打に抑えただけに魔の二回だったといえる。



二回裏轟ク一死満塁、藤田の中前タイムリーで三走を迎え入れ2点目を挙げる

気負わず投げれた

前田正文投手の話

前日投げていたので肩はほぐれていた。打線も早い回に得点してくれたので気負わずに投げれた。島クラブ打線はタイミングが合わなかったのでは…。昨秋の県体でたしか小値賀だったと思うが完全試合をしており、きょうまたノーヒットノーラン。うれしいですね。

【福江】打安点

⑦ 畑 中	4 0 0
③ 貞 方	2 1 1
⑨ 才 津	4 1 0
② 田 端	2 0 0
① 川 崎	3 3 0
④ 田 中	1 0 0
⑥ 岩 下	2 0 0
⑤ 都々木	3 1 0
⑧ 西 川	3 0 0
24 6 1	

平均45歳が若さに競り勝つ

【準々決勝】 1時間40分 振球犠盗失残併

メンフッズ福江	000 010 0	1	1	3	3	1	0	8	0
大村市役所	000 000 0	0	5	2	0	0	1	5	0

【二】黒岩

【評】毎回のように走者を出しながら得点できない福江は五回、先頭の都々木が遊越え打。投ゴロで二進し貞方の左中間安打で懸命に決勝点のホームに駆け込んだ。

平均年齢が30歳の大村市役所も四回に先頭の西村が二遊間突破。一死後に黒岩の左中間二塁打で二三塁と絶好の先制機だったが、直球、カーブを高低、左右に散らす、福江のエース川崎にうまくかわされた。川崎は打っても3打数3安打。福江守備陣も無失策でエースを盛り立てた。

【大村】打安点

⑥ 横 田	3 0 0
⑧ 西 村	2 1 0
② 山 下	3 0 0
③ 黒 岩	3 2 0
⑤ 小 川	2 0 0
H 9 久 保	1 0 0
⑦ 森 幸	2 0 0
① 浦 辺	3 0 0
⑨ 5 森 克	2 0 0
H 小 中 尾	1 0 0
④ 坂 野	2 0 0
24 3 0	

逆転 サヨナラ 粘り腰の勝利

【準々決勝】 1時間41分 振球犠盗失残併

大瀬戸クラブ	001 000 0	1	3	0	0	0	0	4	0
中興化成工業	000 000 2x	2	2	5	4	1	0	6	0

【二】宮口

【大瀬戸】打安点

⑥宮口	3	1	1
②向井	3	1	0
⑧山添秀	3	0	0
①浦上	3	1	0
⑤西平	3	0	0
⑦宮鳥	3	0	0
⑨大抜	3	1	0
③小橋	3	1	0
④山口	2	0	0
26 5 1			

【評】中興化成工業が七回土壇場でサヨナラ勝ちした。1点を追う中興化成は七回、先頭の田代が四球で歩き、続く橋本の左前打で一二塁。牧尾が手堅く送ったあとで大塚が絶妙のスライズを決めて同点。さらに小佐々の二塁後方にフラフラと上がった当たりが幸運な内野安打となり、三塁から橋本が決勝のホームを踏んだ。それまでの中興化成は大瀬戸の浦上投手に1安打に抑えられ勝ち目は薄かったが粘り腰の勝利だった。大瀬戸クラブは三回に安打の小橋を宮口の左越え二塁打で迎え入れて1点を先取り優位に試合を進めたが、もう1点追加点を挙げ得なかったのが痛かった。

【中興】打安点

⑧小佐々	4	1	1
⑥沢田	2	0	0
⑤中島	2	0	0
②山崎	3	0	0
①久保川	3	0	0
④田代	1	0	0
⑦橋本	3	1	0
③牧尾	1	1	0
⑨大塚	0	0	1
19 3 2			

大会最終日は準決勝と決勝があり、石川国体出場の親和銀行が3年連続9回目のVに輝いた。準決勝第1試合は0-1とリードされた親銀が誤解に四球と敵失で反撃機をつかみ、米倉、酒井の下位打者に適時打が出て3点を挙げ、轟クラブに逆転勝ち。第2試合は選手権初出場ながら3年前の平成元年から始まった国体壮年の部で2年連続で県代表として九州国体の舞台を踏んでいるメンフツ福江が、二回に下位打者の長打攻勢で3点先取したが、頼みの左腕・川崎に三日連投の疲れが出て、中興化成工業の反撃を許し3-4で惜敗し決勝進出はならなかった。

決勝戦は、メンフツ福江に刺激されたわけではないが、親銀監督の43歳ベテランの宮本が完投して中興化成打線を散発2安打に抑えると、八回二死から連続5安打のつるべ打ちで3点を挙げるバックの援護もあって完封勝ちした。

閉会式で勝本秀行長崎新聞社事業本部長が「三日間の熱戦ご苦労さま。優勝した親和銀行は来年もまたVを目指して欲しい。惜しくも敗れた中興化成工業は来年こそ頂点を目指してもらいたい」とあいさつ。平井清光・県連盟理事長が閉会宣言し、両チームが場内を一巡して大会の幕を閉じた。
(平成3年11月18日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

親銀の下位打線が活躍 轟は初回の好機を逃がす

【準決勝】 1時間24分 振球犠盗失残併

親和銀行	000 030 0	3	0	1	1	0	0	0	0
轟クラブ	000 100 0	1	3	1	1	0	1	6	0

【二】道副 谷端道

【親和】打安点

⑧7中田	3	0	0
6添田	0	0	0
④清水	3	0	0
⑦89益永	3	0	0
③上杉	3	0	0
⑤7田口	2	0	0
⑨仲島	1	0	0
8丸本	1	0	0
②米倉	2	1	2
①荒金	1	0	0
H川崎	1	0	0
1志賀	0	0	0
⑥5酒井	2	1	1
22 2 3			

【評】親和銀行がワンチャンスを得点に結び付けて辛勝した。試合展開としては全く轟クラブのペース。前日ノーヒットノーランを演じた前田が前日を上回る出来で四回まで親銀打線を三人ずつで片付ける。攻めては本来の出来でない親銀の荒金投手を立ち上がりから激しく襲い、一回の先制機こそ逸したが四回に犬塚の中前タイムリーで1点を先行した。前田の快投に興味を持たれたが、五回一死後に田口を歩かせたのが悪く、丸本の何でも無いバントを一塁悪送球して一死二三塁のピンチを招いた。こうなると親銀は強い。米倉が外角球を逆らわず右前に合わせて二者を迎え入れ、二死後に酒井の三遊間突破安打で三進していた米倉も還った。前田は自らのエラーで緊張の糸が切れたようだ。轟クラブにとって惜まれるのは初回到道副と芦塚の長短打でつかんだ一死一三塁の絶好機に、4、5番が簡単に打って逸したことだ。轟クラブのベスト4は、諫早・北高が分離した54年に初出場した第29回大会(親銀に0-2)と3年連続出場した56年(親銀に0-1)以来9回目の出場で三度目。

【轟】打安点

②藤田	4	0	0
④道副	3	1	0
③芦塚	3	2	0
⑥山口	2	0	0
①前田	2	1	0
⑤谷端和	3	0	0
⑧犬塚	3	1	1
⑦浜崎	3	0	0
⑨田中	2	0	0
H谷端道	1	1	0
R山本	0	0	0
26 6 1			

中興が中盤に逆転 福江の逃げ切りならず

【準決勝】 1時間43分 振球犠盗失残併

メンフツ福江	030 000 0	3	1	1	1	0	1	4	1
中興化成工業	000 310 X	4	2	2	1	5	1	8	1

【三】岩下 【二】磯田

【評】平均年齢が45歳の壮年チーム・メンフツ福江は二回に四球出塁の田中を、磯田のエンタイトル二塁打で還し先制点。続く岩下の右越え三塁打と畑中の中前打により計3点をあげて大きくリードした。しかし中興化成は四回に川崎投手の疲れにつけ込み、先頭・山崎が四球後に久保川と田代の連打に盗塁を絡ませて山崎が生還。さらに橋本の四球で無死満塁にして、

牧尾が三振の後、大塚の2点左前打で同点とした。勢いに乗る中興化成は五回に中島が右中間に安打。二死を奪われたが田代の中前打で中島を迎え入れ逆転した。メンフツ福江は何とか反撃を試みるが、久保川投手の好投に抑えられ、健闘むなしく準決勝で敗退。

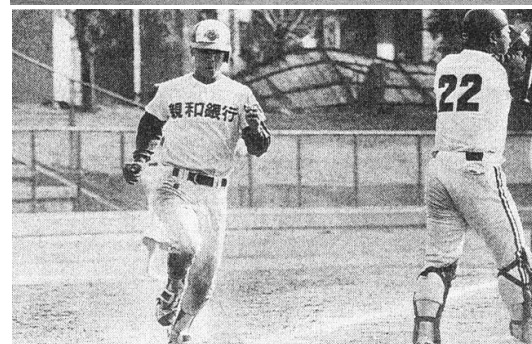
(個人のテーブルは次ページに掲載)

【福江】打安点	【中興】打安点
⑦畑中 4 1 1	⑧小佐々 4 1 0
③貞方 3 0 0	⑥沢田 3 0 0
⑨才津 3 0 0	⑤中島 4 1 0
②田端 3 1 0	②山崎 2 1 0
①川崎 3 2 0	①久保川 3 1 0
④田中 3 0 0	④田代 3 3 2
⑤都々木 2 0 0	⑦橋本 2 1 0
H西川 1 0 0	③牧尾 3 1 0
⑧磯田 3 3 1	⑨大塚 3 1 2
⑥岩下 3 1 1	27 10 4
27 8 3	

福江の川崎義通投手は五島高校から電電九州を経て昭和42年の第3回ドラフト9位で東映フライヤーズ(現・日本ハム)入団。4年間在籍し1試合0勝0敗。福江球友会からアマチュア復帰申請があり62年に認められた。

【親和】打安点	【中興】打安点
⑧丸本 5 2 0	⑧小佐々 4 0 0
④清水 4 4 0	⑥沢田 4 1 0
⑨益永 3 1 1	⑤中島 3 0 0
③上杉 4 2 0	②山崎 3 0 0
②黒石 4 1 2	①久保川 3 0 0
⑦田口 2 0 0	④田代 3 0 0
H7中田 2 1 0	⑦橋本 3 0 0
⑥添田 4 0 0	③牧尾 3 1 0
①宮本 4 0 0	⑨大塚 3 0 0
⑤酒井 4 0 0	29 2 0
36 11 3	

3年連続9回目優勝の親和銀行ナイン



8回表親銀二死一二塁、益永の中前タイムリーで二走丸本生還

◇表彰選手◇

- 最優秀選手賞 黒石 有(親銀)
- 最優秀投手賞 宮本 博久(親銀)
- 首位打者賞 川崎 義通(福江)

(3試合9打数7安打, 777)

- 打撃賞 清水 一善(親銀)
- 敢闘賞 久保川勝彦(中興)

親銀V国体出場の貴祿

ベテラン 散発2安打の完封 宮本投手

【決勝】 1時間30分 振球犠盗失残併

親和銀行	000 000 030	3	1	0	1	1	0	6	0
中興化成工業	000 000 000	0	8	0	0	0	1	2	0

【二】清水、中田

【評】二枚看板の荒金が本調子でなく、井内が故障とあって親銀は43歳の宮本監督が自らマウンドに上がった。その宮本はスライダーを決め球に打者に打ち気がないと見るとズバリ投げ込み、打ちにくると外角ボールになるタマを振らせるなど不甲斐ない投手陣に手本を示すようなピッチング。今シーズン限りで監督を引退する花道を自らで飾った。

中興打線はこの頭脳的なピッチングに翻弄され一回と九回に1本ずつの安打を放っただけ。二回の三者連続を含む8三振を喫した。また宮本の術中にはまり大振りが目立ったが、じっくり引き付けて打ち返すべきではなかったか。

親銀打線も七回まで6安打を放ちながら後続がなかったり、盗塁に失敗するなどの粗さがみられ、親銀らしくない攻撃ぶりだったが、八回二死から丸本の三遊間安打を口火に清水と益永が連打し丸本を迎え入れ(写真)、さらに上杉の内野安打の後に黒石が左前に2点打を放ち中興化成の命脈を絶った。

中興化成工業は9回目の選手権だが、3回目の昭和53年(第28回)大会で準優勝(3-5・奈良尾クラブ)以来13大会ぶり2度目の準優勝だった。

県代表チームの全国大会戦績

天皇賜杯第46回全日本 9.13~・北海道(旭川市ほか)

- 【一】親和銀行 1-0 日東建設(山梨)
- 【二】" 8-0 八戸信用金庫(青森)
- 【三】" 1-3 サンクス(愛知)=優勝(5連覇)

第13回西日本(1部) 5.24~・岡山県

- 【一】平戸島クラブ 1-5 榊ナカオ(山口)

高松宮賜杯第35回全日本(1部)は参加なし

第46回石川国体(成年1部) 10.13~

- 【一】親和銀行 1-2 JT金沢(石川)

第13回西日本(2部) 5.17~・兵庫県

- 【一】九電相浦 1-11 住建産業(広島)

高松宮賜杯第35回全日本(2部)は参加なし

平成3年に開催されたその他の競技会の戦績 (一般のみ)

天皇賜杯第46回県予選 6.29~佐世保

吾妻町体協(南高)	3
ソニー長崎(諫早)	5 1
鴻の巣クラブ(東彼)	0 1
三菱重工長崎(長崎)	8 2
生月体協(県北)	1 1
西海クラブ(佐世保)	3 2
壱岐クラブ(壱岐)	0 5
舩田グループ(上五島)	5 0
島クラブ(平戸)	2 0
大瀬戸クラブ(西彼)	0 3
中興化成工業(松浦)	5 0
親和銀行(佐世保)	14 7
小長井クラブ(北高)	0 4
福江ビクトリー(福江)	0 0
長崎県共済連(長崎)	5 6
厳原ワイズ(対馬)	7 2
中村クラブ(大村)	3

第46回国体(成年2)予選 5.3~佐世保

球友クラブ(大村)	0
平戸クラブ(平戸)	5 0
轟クラブ(北高)	3 0
有明町クラブ(南高)	2 2
三菱重工長崎(長崎)	6 7
諫早信用金庫(諫早)	2 1
舩田グループ(上五島)	1 3
佐世保市水道局(佐世保)	7 0
田河東海(壱岐)	0 0
鴻の巣クラブ(東彼)	4 0
オール江迎(県北)	5 5
島原市役所(島原)	3 0
松浦クラブ(松浦)	13 7
西海クラブ(佐世保)	3 0
崎山クラブ(福江)	0 1
長崎県経済連(長崎)	7 7
上対馬ライオンズ(対馬)	7 0
大瀬戸クラブ(西彼)	1

第46回国体(壮年)予選 6.22~諫早

メンフッズ福江(福江)	0
大村市役所(大村)	0 1
コーカスクラブ(長崎)	6 7
北松壮年クラブ(県北)	7 0
小長井壮年クラブ(北高)	3 5
上五島壮年(上五島)	4 3
壮年厳原クラブ(対馬)	3 1
諫早壮年クラブ(諫早)	3 4
松浦壮年クラブ(松浦)	0

コーカスクラブは九州国体(熊本)で敗退

成年1部の親和銀行は九州国体を突破して石川国体に九州枠(2)で出場した

県経済連は九州国体(熊本)で敗退

第13回西日本1部県予選 4.6~島原

西日本1部と2部の県予選大会は、4月6日~7日に行なう予定であったが、両日も降雨激しく試合ができなかった。次の日程の関係から「どうしても本大会に参加したい」というチームの中から抽選により、県代表チームを決定した。
1部=島クラブ(平戸) 2部=九電相浦(佐世保)

第13回西日本2部県予選 4.6~大村

第14回九州選手権県予選 4.20~諫早

大村市役所(大村)	3
長崎県経済連(長崎)	6 4
中興化成工業(松浦)	0 2
親和銀行(佐世保)	4 1
鴻の巣クラブ(東彼)	0 6
南串野球部(南高)	6 4
諫早クラブ(諫早)	1 5
轟クラブ(北高)	1 6
三菱重工長崎(長崎)	0 0
西海クラブ(佐世保)	1 2
長崎県共済連(長崎)	4 1
生月体協(県北)	0 4
平戸クラブ(平戸)	0

雲仙・普賢岳災害について 昨年(平成2年)の11月17日、雲仙岳の主峰・普賢山(標高1359m)の山頂付近から白煙のたなびきが目撃された。「島原大変」から199年ぶりの噴火で、観光名物になると喜んでいましたが、半年後の5月15日に島原市の水無川に初めて土石流が発生した。そして同月20日に溶岩ドームが出現し、崩落と火砕流が始まり、6月3日の午後4時8分に最大の火砕流が水無川沿いに走って消防団員や警察官に地元農業者など計43人が逃げる間もなく犠牲になった。島原地区の野球チームは野球大会どころではなくなって、安中クラブをはじめ島原のチームは当分の間、各県大会を不参加せざるを得なくなった。

高松宮賜杯第35回1部 6.1~鹿町

海自造修所(佐世保)	3
小佐々クラブ(県北)	1 1
中村クラブ(大村)	1 2
西九州三菱自販(長崎)	6 1
池島鉱業所(西彼)	1 2
三井楽クラブ(福江)	4 2
上対馬クラブ(対馬)	0 0
小長井クラブ(北高)	2 8
島クラブ(平戸)	0 9
今福メッツ(松浦)	4 3
諫早信用金庫(諫早)	10 7
田川クラブ(東彼)	2 5
安中クラブ(島原)	棄 1
ファイヤーバード(上五島)	1
愛野町体協(南高)	5

高松宮賜杯第35回2部 7.7~飯盛

波佐見ローズ(東彼)	7
吾妻町体協(南高)	0 0
ペガサス(大村)	4 8
飯盛クラブ(北高)	11 0
上対馬ライオンズ(対馬)	6 7
ソニー長崎(諫早)	9 12
電源開発(松浦)	1 4
N T T 大和(佐世保)	0 6
九電長崎(長崎)	4 6
カルテックス(平戸)	3 0
外海クラブ(西彼)	2 6
県職五島(福江)	0 0
小値賀クラブ(県北)	2 2
田河東海(壱岐)	0

第43回県民体育大会 11.2~諫早

(平戸)平戸クラブ	3
(南高)南串野球部	2 1
(対馬)美津島マーシャルズ	0 2
(西彼)大瀬戸クラブ	3 5
(南松)富江クラブ	0 4
(長崎)長大クラブ	3 2
(北高)高来町	0 0
(北松)鹿町町	3 0
(諫早)ソニー長崎	2 2
(松浦)肥前クラブ	0 3
(大村)中村クラブ	0 0
(東彼)波佐見野球倶楽部	1 1
(福江)増山建設	2 2
(佐世保)エンジェルズ	0 0
(壱岐)郷ノ浦ヤンキース	1

九州ブロック(熊本)で敗退

九州ブロック(鹿児島)で敗退